

改善例：わかりやすい報告

- 3社訪問しました。
 - A社は導入に前向きで、来週デモを提案予定です。
 - 他2社は継続検討中です。
 - A社は価格感を特に気にしており、コスト削減例を提示すればクロージングできそうです。
- もしA社の提案が通れば、初受注の可能性あります。

ロジカルシンキングの基本

- 筋道を立てて考え、伝える力
- 自分の考えを「相手にとってわかる形」に整える

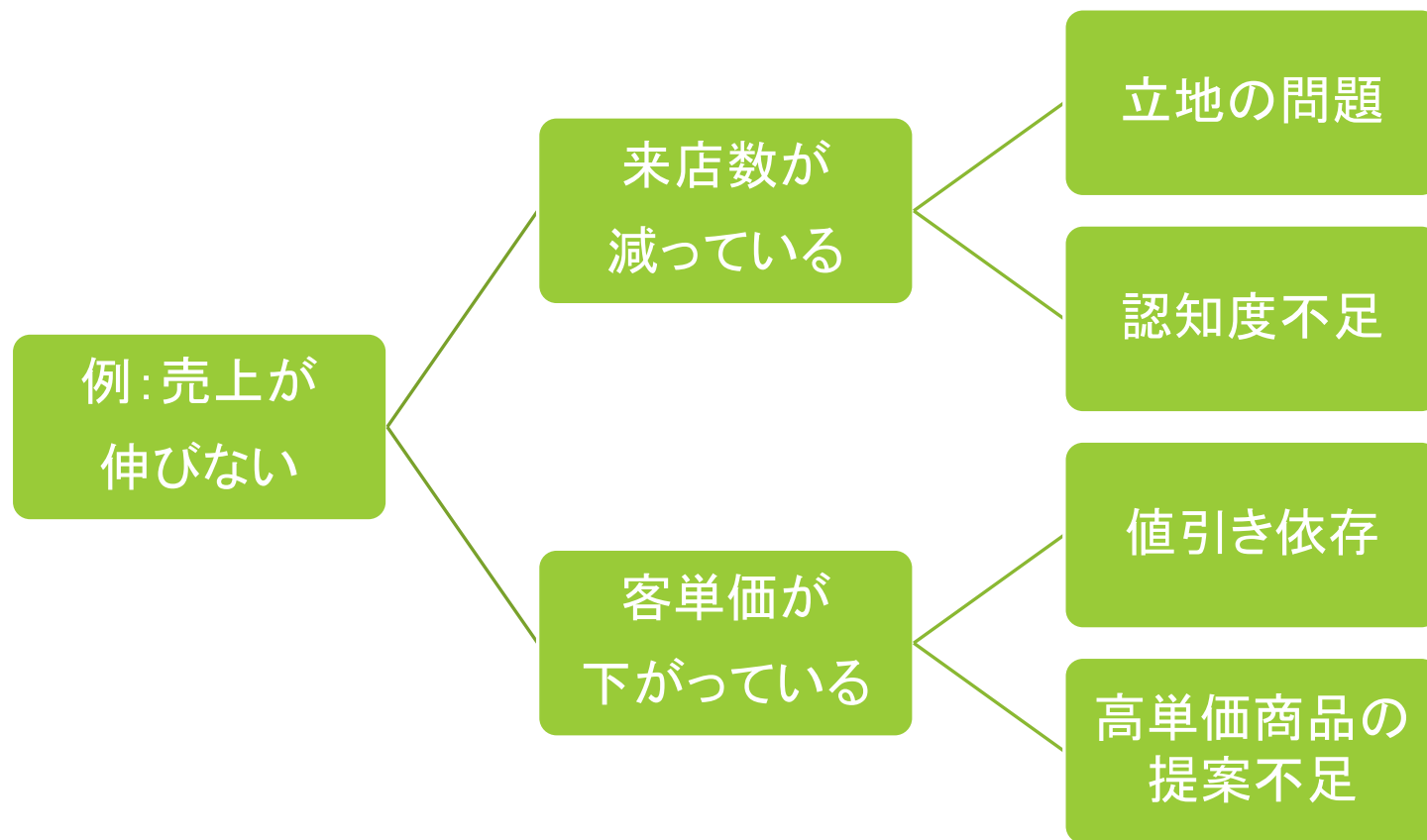
論理的な伝え方の3原則

1. 結論と根拠はセット
2. 因果（理由）と並列（要素）を区別する
3. 情報はモレなくダブリなく（MECE）

PREP法：伝える基本型

- **P**oint (結論)
- **R**eason (理由)
- **E**xample (具体例)
- **P**oint (再主張)

ロジックツリーで“問題”を分解しよう



練習①: ロジックツリー構築演習

【テーマ】「毎朝の始業ミーティングが長引く理由を構造化せよ」

【状況設定】

あなたの部署では毎朝の始業ミーティングが30分以上かかっており、現場からは「朝の業務に集中できない」「議論が冗長で意味がない」と不満が出ている。

部長から「構造的に要因を洗い出して、改善策につなげてほしい」と指示が出た。

MECEとは？

- **M**utually **E**xclusive (重複がない)
- **C**ollectively **E**xhaustive (モレがない)

【ビジネスでの応用】

- 分類・要因分解・選択肢の提示時に不可欠

演習①: A(前提)を見てB(結論)を考える

【問題①】以下のA(前提)に対して、B(結論)を考えてください。

- A: 価格が競合より2割高い → B: ()
- A: ヒアリング量が十分でない → B: ()
- A: マニュアルが不十分 → B: ()

【進め方】

1人で3つの「B」を考える(3分) → ペアで交換し共有(5分)「納得感のあるBか？」をペアで評価する

演習②: B(結論)を見てA(前提)を考える

【問題②】以下のB(結論)に対して、それを導くA(前提)を考えなさい。

- A:() → B: FAQページを強化すればコール数が減らせる
- A:() → B: オンラインでの雑談機会を設けるとチーム力が向上する
- A:() → B: メンター制度を導入すれば離職率が下がる

【進め方】

ペアで「なぜそうなるのか？」を考えながらAを想定(3分) → 共有(5分)「因果が成立しているか？」を検討する

ケーススタディ: ビジネス会議の議論が噛み合わない

【状況設定】

ある部署で週次の会議をしているが、毎回話が拡散し、議論が噛み合わないまま時間が過ぎる。発言者が主観的・感情的な意見を言う傾向が強く、論点がずれていく。

【問い】

この状況を改善するには、どのような「ロジカルな枠組み」で整理・提案できるか？

【進め方】

- ペアで「問題点の構造化」→「仮説構築」→「改善策提示」までをPREPまたはA→B構文で展開しましょう